ひがしとよなか だより

令和6年（2024年）度６月号
豊中市立 東豊中小学校
校長　河上洋介

学校目標　豊かな心を持ち、よく考え、自分の力で生きぬく子ども

本校の校内研究について

本校では、研究主題を「主体的に学習に取り組む態度を育てる授業づくり」として、３つの推進委員会に分かれて校内研究を進めています。それぞれの研究テーマ、目標は下表のとおりです。

推進委員会	研究テーマ、目標
人権教育推進委員会	命を大切にし、互いの人権を尊重し合える子どもの育成
研究教科推進委員会	物語教材、学習用語
特別教科推進委員会	ＩＣＴ活用、プログラミング的思考

研究教科推進委員会のテーマである学習用語とは、例えば、物語の「語り手」「会話文」「地の文」「中心人物」といった用語について子どもたちが理解し、意見を発表するとき等に使えるようになることで、物語の読みが深まることを目指しています。学習用語に限らず、子どもたちの表現力や理解力、コミュニケーション力を高めるうえで語彙を増やすことは大切です。そのための有効な手立ての一つとして、読書があります。本を読むことで、今まで使ったことのない言葉や言い回しに出合い、子どもたちの言葉の世界が広がっていきます。本校では、今年度から朝読書の取組みを始めています。児童集会のない水曜日の朝１０分間、どの教室でも読書をしています。このとき読む本は物語の本としています。このことに伴って、学校図書館で借りる本２冊のうち１冊は物語の本を借りるように指導しています。４月１８日（木）に６年生が取り組んだ全国学力・学習状況調査の国語の最後の問題は、読んだ本を記録しておく「読書の記録」を扱ったものでした。読書感想文とまではいかなくても、読書の記録をつけてみると読書の楽しさが広がるでしょう。保護者の皆様にも、お子様といっしょに読書に親しんでほしいと思います。

今回の国語の問題で「読書の記録」が扱われているように、全国学力・学習状況調査の問題の傾向や特徴からは、今どのような学習活動が学校に求められているのかを考える手がかりが得られます。国語の問題では、離れたところにある学校とオンラインで自分の学校の取組みを紹介し合う、という場面が描かれています。このようにＩＣＴを活用した学習活動は今後ますます広がっていくのでしょう。本校でも、特別教科推進委員会でＩＣＴ活用について研究を進めており、日常的にタブレットの機能を学習に活用しています。例えば、音読の宿題にタブレットを活用する等、以前は考えられなかったようなことができるようになっています。ところで、４月１７日（水）に５年生が取り組んだ小学生すくすくウォッチの国語の問題は、漢字の書き取りの問題でした。「けんこうへのかんしんのたかさにかんしんした。」という文を、漢字に直せるものは全て漢字を使って書く、という問題です。正答は「健康への関心の高さに感心した。」です。この問題文をパソコンで入力すると自動的に正しい漢字に変換されます。世の中が便利になって、これまで苦労していた人が助かることも多いだろうし、そのこと自体は単純によいことと思います。でも、手書きには、字が下手であっても気持ちが伝わる、といった手書きのよさがあります。こういったことが忘れられてしまわないよう注意しながら、ＩＣＴの活用を進めていきたいです。

いわゆる教育の不易と流行、という点では、３つ目の人権教育は、まさに不易にあたるところでしょう。偏見や差別を許さない心を育てていきたいと考えています。校内研究については、今後も、研究授業や教職員研修のようすについてお知らせします。

＜連絡やお願い＞

・４年生の理科を受け持つ山本清茂先生が５月２１日（火）から勤務しています。

・用務員として学校だより４月号で紹介していた方がやむなく変更となり、川崎守さんが５月１日（水）から勤務しています。

・小学校スクールカウンセラー福嶋さんの次回派遣日は６月１０日（月）です。面談希望がありましたら担任あてお申し出ください。